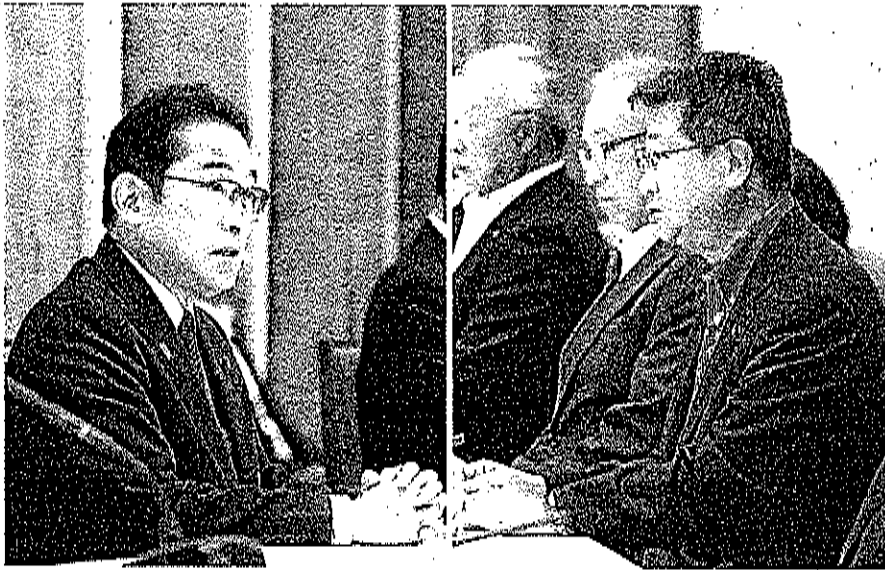


処理水放出24日にも



①岸田文雄首相と面会し発言する金漁連の坂本雅信会長(右)②面会し発言する岸田首相=いずれも21日、首相官邸、上田幸一撮影

一定の理解と首相ら判断 全漁連会長らと面会 きょう正式決定

東京電力福島第一原発の処理水の海洋放出について、政府は24日にも放出を始める方向で最終調整に入った。関係閣僚会議を22日に開いて正式に決定する。漁業関係者らから「一定の理解を得た」と判断した。6月から福島県沖で底引き網漁が解禁となることも考慮し、8月中に放出を開始する。政権幹部が明らかにした。

▽2面＝納得なき「理解」、25面＝豊かな海と悩み歩んだ

漁業者は懸念

「反対変わらぬ」

首相は21日、放出への理解を得るため、全国漁業協同組合連合会(全漁連)の坂本雅信会長や福島、宮城など被災5県の漁連幹部らと首相官邸で面会した。松野博一官房長官と西村康稔経済産業相も同席した。首相は「漁業者が安心

とはいきさかも変わらぬ」とする一方、放出計画が「国際的な安全基準に合致」と評価した国際原子力機関(IAEA)の報告書などに触れ、「科学的な安全性への理解は私も事業者の間でも深まってきた」と述べた。そのうえで「科学的な安全と社会的な安心は異なる」とし、風評対策などの予算確保を求めた。

処理水の放出をめぐるでは、安倍政権と東電が2015年に「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」と福島県漁連に文書で伝えている。21年に菅政権が処理水の海洋放出を決定した。

坂本会長は面会後、記者団に「約束は破られてはいないが、果たされてもない」とし、「我々の望みは安心して漁業を継続すること。国にしっかりと受け止めてもらいたい」と述べた。

一方、西村経産相は面会後の記者会見で、これまでの地元自治体や漁連との意見交換、坂本会長の21日の発言などを踏まえ、「関係者の一定の理解を得たと判断した」と強調。22日に関係閣僚会議を開き、放出日程を正式決定することを明らかにした。